

教育目標:	○自ら学び、よく考える	○進んで協力し、他人を思いやる	○心身ともにたくましく、最後までやりぬく
目指す学校像:	○生徒が主体的に学び活動する学校 ○教職員が協働して教育活動を創造していく学校 ○保護者や地域社会から信頼される学校		
目指す児童・生徒像:	○自ら学びよく考える生徒 ○進んで協力し他人を思いやる生徒 ○心身ともにたくましく最後までやりぬく生徒		
目指す教師像:	○教育に対する熱意と使命感に富む教師 ○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師 ○研修意欲に富み互いを高め合う教師		

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな心と社会性	豊かな人間関係を育むとともに、命の大切さと人の心の痛みが分かる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な教育活動を通して自己肯定感を高め、いじめや不登校を防止する。 「特別の教科 道徳」は、指導方法を工夫し、「考える道徳」議論する道徳を推進する。 社会的能力(「自己表現力」「自己コントロール力」「状況判断力」「問題解決力」「親和的能力」「思いやり)」を高める。 	生徒一人一人のよさを見つけ、認め励まし伸ばす指導。三中いじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止対応を図る。	3 87.5%	4 100%	4 100%	4 100%	今後も生徒の良さを見つけ、またコンプリメントを継続し生徒の自己肯定感を高める指導を行っていく。情報共有については学年間だけでなく、学年を超えた共有もさらにすすめていき、いじめの早期発見、未然防止に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価に比べると、教員の努力指標の数値がどの項目も上がっている。取組に対する教員の意識の高まりを感じる。 自己肯定感がもてなくなることがいじめにつながる可能性があるため、自己肯定感を高めていく指導を継続していただきたい。 「自分がいじめているつもりでなくとも、相手がいじめと感じればいじめである」が浸透している。今後も取組の継続をして欲しい。 いじめ防止の項目で10%の保護者から厳しい評価が出ている。日頃から授業や学級運営などで生徒を観察し、保護者ともコミュニケーションをとる努力を惜しまないことが重要。
			<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」は、指導方法を工夫し、「考える道徳」議論する道徳を推進する。 評価は、生徒の良さを認め意欲につながる評価を行う。 	2 75.0%	4 100%	4 83.8%	4 84.9%	学年道徳やローテーションでの授業など指導法の工夫は今後も継続していく。また評価に関する研修を深め、生徒の良さを評価し意欲的に生徒が取り組む授業を目指していく。今年度は話し合い活動などがコロナ対応で十分にできない面があったが、来年度導入される一人一台のタブレットを活用し意見を出し合うなど文字による対話も取り入れていく。また学年通信等で道徳の授業の様子を発信しているが、さらに学校全体ですすめていく。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業では、指導体制を工夫し「考える道徳」「議論する道徳」に推進的に取り組んできたことがうかがえる。 命の大切さは重要なテーマであり、自他共に尊重し合える心の育成に力を入れていただきたい。 道徳に限らず、自分の考えをしっかりともち、恥ずかしがらずに、自分の意見を積極的に発表することは、どの場面でも必要になるので、斜に構えたりせずにと堂々と自信をもって生きていく生徒を育てていただきたい。
			教育活動の様々な場面で、それぞれの教員の持ち味を活かし、生徒の社会的能力を高める指導を行う。	3 87.5%	4 100%	4 84.0%	4 84.7%	それぞれの教員の持ち味を活かした取り組みを継続し、社会的能力の向上を図っていく。また、社会的能力には生活の基本習慣という面もあるので、規律を守る指導も併せて行っていくことが必要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> 社会的能力の成果指標は高くなっている。自分の気持ちをコントロールできるかを見ると、2、3年生の自己評価がやや厳しく出ていることが印象に残った。コミュニケーション能力、自己統制、思いやりは、社会生活を営む上でも必須である。これらの能力が重要であることを説明し、さらに良い動きをした生徒を褒めて伸ばしていただきたい。 学校と家中心の生活の1年だった。社会性を育む行事や活動の制限があったが、逆にコロナに奮闘する社会を見る1年だったとも言える。保護者アンケートの家庭で学校のことが話題になる77.1%が少し気になる。学校側からの配布物でしか学校の様子を知ることができないが、学校任せにせず、もう少しコミュニケーションを取って、保護者も、学校-家庭-地域を意識したほうが好ましいと思う。
確かな学力	基礎力、思考力、実践力をバランスよく育み生徒一人一人に確かな学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びに向かう力を高める。 	授業のユニバーサルデザイン化を図り、分かる授業をすすめる。考えさせる授業、理由を示しながら自分の考えを表現させる授業など、学習活動を工夫する。	4 100%	4 100%	4 85.4%	4 84.5%	授業のユニバーサルデザイン化については今後も推進していく必要がある。また、理由を示しながら自分の考えを表現させる授業など発表活動が十分にできない部分があったのが、来年度に向けてタブレットを活用したプレゼンテーションや考えの共有などを行う授業をすすめていく。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の授業の中で、めあての提示やICT機器の効果的な活用を行いながら「わかりやすい授業」を目指している点が評価できる。 改めて勉強の仕方を指導し、予習、授業、復習の流れをつくるが必要であると考える。 部活動や行事の縮小で、勉強する時間は増えているが、自宅学習の伸びはどうか知りたい。アンケートでは授業は楽しくわかりやすい(84.5%)とあるので、先生方もコロナ禍の中工夫して色々授業に取り組んで下さっているのだと思う。
			<ul style="list-style-type: none"> 朝読書、質問教室、補充教室、サポート教室等を実施し励ましや肯定的な声かけ等、個に応じた指導を充実させる。 	3 83.3%	4 92.0%	4 85.6%	4 85.6%	今後も質問教室、サポート教室の取り組みを継続していく。サポート教室は、希望の生徒が多く時間数増を希望したい。来年度に向けて、一人一台のタブレットの活用で個に応じた指導をどのように行うか研究が必要である。朝読書の取組に温度差があるので、指導の共通理解を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでも高い評価を維持しているため、励ましや肯定的な声掛けをこれからも続けていってほしい。 一人一台のタブレットを活用した意見交流の方法やプレゼンテーションのやり方を進めていくことが有効だと考える。 質問教室、補充教室、再テストなど機会をつくり、学力の底上げを行ってほしい。 最終評価が昨年より向上した。生徒アンケート評価を分析する場合、年次のスコアの推移を改善指標として教員間で共有するなど、コホート分析を使って改善要因を見つけるのが良いかもしれない。 学習に遅れがちな生徒にはやはり、サポートが必要と思う。補充教室、サポート教室の充実をお願いしたい。他市のように協力者(外部指導者)に手当てができると良いと思う。地域には協力者が多くいると思う。
学校居心地感	生徒の学校居心地感を高める。	生徒の心の居場所、生徒同士のきずなづくりの場所のある環境づくりをすすめる。	生徒の実態を把握し困難さに応じて様々な工夫や手立てを講じる。教科の学習、行事、部活等様々な場面で生徒の学校居心地感を高めるアプローチを行う。	4 100%	4 100%	2 82.8%	2 84.3%	学校居心地感の低い生徒に対しては、個別面談等を活用し相談活動を充実させていく。生徒が落ち着いた環境で過ごせるよう教員が統一した指導を行うこと。生徒には横のつながりに役立つコミュニケーションのとり方について学ぶ機会も必要である。また、校内研修でも生徒の自己肯定感を高める指導について継続して行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 「先生たちは私たちとのコミュニケーションを大切にしている」という項目で、9割の生徒が肯定的な回答をしていることは素晴らしいことだと思う。また「学校居心地感」については最高評価を付けている生徒の割合が高い。日頃から教職員が生徒とのかかわりを大切にしてきた結果だと思う。今後は低い評価を付けた生徒への丁寧な対応が必要だと考える。 居心地に着目して、生徒一人一人に目を向ける努力をされています。生徒にとっては先生に認めてもらえることはもちろんうれしいし力になるが、「良い友達がいる、心安らぐ場がある」ことが重要なのだろう。 褒められた経験が多い人ほど、苦境でへこたれない力や自己肯定感が強く意欲やコミュニケーション能力が高い傾向があるので、今後も学校居心地感を高める指導を継続して欲しい。 部活動の制限や行事の中止、延期は昨年から続いているものの、勉強やテストは通常のみで、学校=勉強のみと生徒からの息苦しさをよく聞く。コロナ禍の中でも何かしら楽しみを見つけ希望となるような学校生活ができたら居心地感も高まるのではないかとと思う。